

## 6 おわりに

現在、多くの学校では、教員の授業改善や授業力向上のための有効な手段として、校内研究や研究授業を実施している。

ところが、国立政策研究所が行った「教員の質の向上に関する調査研究報告書」（平成23年3月発行 公立小学校1000校への調査）によると、校内研究を実施する上での課題は、「多忙で校内研究に取り組む時間がない。」が33.9%と最も多かった。また、教員一人あたりの研究授業実施数としては、「1回以下」が74.3%と最も多かった。

つまり、多くの教員は、校内研究や研究授業が授業改善や授業力向上のために重要であることは十分認識している。しかし、アンケート結果からもわかるように、日々多くの教育課題や児童生徒の指導に追われる教員にとって、校内研究や研究授業の実施状況は十分満足のいくものとは言えないようである。

そこで、本研究では、教員の多忙感を増すことなく、授業改善や授業力向上に生かすことができる方法として、教員が日常的に作成している週案の活用方法に焦点を当てた。また、先の国立教育政策研究所の報告書の中で、日常的な指導体制として「週案によるコメント」を重視している校長が40.5%（3位）と多く、有効な指導・助言のツールとして活用されていることも週案を研究対象とした理由の一つである。

本研究で実施した、教員を対象とした週案についてのアンケート結果から、次のようなことがわかった。

- (1) 週案は、ほとんどの教員が作成している。
- (2) 校長・教頭は、週案を介して教員に対する指導・助言を適切かつ速やかに行っている。
- (3) 週案は、主に「授業時数の管理」、「授業進捗の確認」のために活用されており、「授業改善」の視点に立った活用は約30%にとどまる。また、多くの教員は、「授業改善は研修や授業研究で行うもの」であり、「週案で授業改善を行うことは難しい」と考えている。
- (4) 週案に記載されている多くの授業記録や授業実践上の工夫などが、個人的な記録にとどまり教員間で共有されていない。
- (5) データの共有による作成時間の削減など、多忙感解消のために工夫している学校は少ない。

この結果を踏まえ、本報告書では、週案を授業改善・授業力向上のために活用している取組としてA、C、Dの事例と、データの共有化による多忙感の解消や授業記録の適切な管理を目指した取組としてBの事例を紹介した。

- A 週案と自己評価の一体化による授業改善
- B パソコンを活用した効率的な週案の作成とその管理
- C 週案を学年経営・学校運営に生かすことを通じての授業改善
- D 週案を自身のポートフォリオとして活用することでの授業改善

これらの事例のどれもが自校の課題を解決するために、週案の様式や機能を改良したり、その活用方法を工夫したりする積極的な試みである。これらの取組からも週案を改

良し新たな機能を持たせることや従来からある教育活動と関連させることで、週案が授業改善のための強力なツールになることがわかる。さらに、パソコン等を利用して情報の共有化を一層進めることは、週案の作成時間削減による多忙感の解消や他の教員の授業テクニックを参考にした授業改善や授業力向上につながるであろう。

特に、ここ数年、本県では若い教員が急激に増加している。この若い教員たちにベテラン教員の授業実践上の工夫やテクニック、実習や実験を行う際の注意点などをスムーズに継承することが重要かつ急務であり、この点においても週案を共有化することは有効であると考えられる。そのための一つの方法として、週案の様式を「公開して誰でも自由に閲覧・利用できる部分」と「児童生徒の個人情報等を含み公開できない部分」に分け、前者をサーバーやフォルダに保存し共有するなどの工夫が考えられる。

**参考資料 1** は、その様式と活用方法の一例である。

この調査研究では、週案の新たな活用方法を、県内の小学校から発掘して紹介した。教員が日々作成し、教育現場に定着している週案を、各学校の実態に合わせて改良し、より効果的に活用するときの参考にさせていただければ幸いである。

最後になりましたが、この調査研究にご協力いただいた多くの関係教育機関や関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。

<参考資料 1>

授業改善に活用するための週指導案の様式（例）

- ・年間計画との自動リンク
- ・前年度のデータの活用
- ・市統一形式の利用（匝瑳市）
- ・マクロ等による自動化

効率的に作成し、  
業務量を軽減

- ・授業における指導の工夫
- ・教材の工夫
- ・発問の成功例
- ・実験や実習実施上の留意点

など、次年度の自分自身や  
若手教員をはじめとする同僚  
の参考となる内容。  
児童の個人情報等は記載  
不可。  
電子データで記載。

○週案を、「公表し  
て全教員が閲覧  
・活用できる部  
分（ページ）」と  
「公表せず個人  
的に利用する部  
分（ページ）」に  
明確に分割する。

		①週授業計画の欄			
		③授業の工夫などの記入欄			

  

②授業数管理の欄	
④反省やセルフチェックシート欄	
⑤管理職のコメント欄	

- ・数式やマクロで  
自動計算
- 効率的に作成し、  
業務量を軽減

- ・生徒指導上の課題
- ・授業実施上の課題
- ・児童の状況

などを記入。  
セルフチェック欄  
や自己評価欄を設定  
することも可能。

- ・週案全体について  
指導助言

○運用の手順（例）  
①を記入  
②は自動作成  
③を授業後に記入  
ここまでの週案をサ  
ーバー等に保存し、  
データを共有  
④を記入  
⑤を記入  
ここまでの週案を個  
人的に保存し、活用

○電子データ化し、サーバーやHDDに  
保存することで、すべての教員が閲  
覧可能となり**データを共有**できる。  
・他の教員の授業の工夫を参考にす  
るなど、**授業を改善**  
・次年度の週案作成に活用し、**業務  
量を軽減**

○授業や生徒指導の記録として、  
閲覧不可とする。  
・記録を**個人的に活用し、授業  
を改善**。

## ＜参考資料 2＞

### 大学における T P（ティーチングポートフォリオ）活用の流れ

#### 1 日本の大学での導入理由

- ・既存の授業アンケートの限界（定型的・形式的）
- ・教員の主体性，独自性を生かす評価の必要性

#### 2 T P のメリット

- ・作成プロセス（自己省察）が教育改善につながる
- ・教員評価の様々な視点を含む（教員の主体性の評価）
- ・評価者へのアピール
- ・情報の共有・改善コミュニティの組織化  
－ I C T を利用した情報共有と発信－

#### 3 T P の概要

##### ＜海外では＞

- ・1980年代，カナダで始まる
- ・1990年以降，アメリカで急速に拡大
- ・教育業績の資料として利用される

##### ＜日本では＞

- ・中央教育審議会答申「学士課程教育の構築」で教育実績の記録を整理・活用する仕組みとして紹介，その導入・活用が明文化

#### 3 作成目的（教育改善・昇進）

- ・自らの教育活動について振り返り，自らの言葉で記し，様々なエビデンスによってこれらの記述を裏付けた教育業績について厳選された記録
- ・教員個人のための教育活動を記録し，振り返るための手段
- ・教員の教育業績を評価する資料（昇進・採用・優秀教育賞など）

#### 4 教員へのメリット

- ・教員個人のための教育活動を記録し，振り返るための手段
- ・作成自体が教える意味を見いだす・・・自己省察の機会を確保する
- ・教育の正当な評価・・・評価者へのアピール手段
- ・評価への効率的な対応・省力化
- ・T P の更新が今後の活動の道標へ

#### 5 組織へのメリット

##### 教員の教育業績を評価する資料

- ・教員の活動の把握・・・見えにくい教育活動を拾い上げる
- ・教員評価における多様な評価視点
- ・情報の共有化（教育資源の共有化）
- ・活きた評価・・・主体的な評価へ

教育改善へ向けて

- 自分の教育活動の長所や成果を記録することができる（昇任・採用）
- 作成のプロセス（教育活動の資料収集・分類，文書作成）が自己改善のきっかけ
  - ・教育に対する説明責任を果たすことができる
  - ・教育の成果を明確に説得力のある形で伝える
  - ・内容は「選択的」←作成する教員の主体性

## 6 TPの主な内容

講義要綱の原稿 シラバス コースパッケージ 授業中の配付物 課題など学生の提出物のサンプル 教科書について気づいた点（誤植・説明不足・誤り） 学生について気づいた点（どこでつまづくか、どこに興味を示したか） 授業中にとっさに思いついた効果的なたとえ、説明 学生アンケートの集計結果と、それに対する自分のコメント 成績の集計結果と、それに対する自分のコメント 同僚・TAなどの授業についてのコメント 授業の録画・録音テープ
---

「2009年9月17日（木）愛知産業大学FDセミナー「教育改善のためのティーチング・ポートフォリオ」  
国立大学法人東京農工大学大学教育センター 准教授 加藤由香里 氏」より作成



8 週案の点検と指導は、どのくらいの頻度で行いますか。

ア 毎日           イ 週に数回           ウ 週に一度           エ 二週に一度

オ 月に一度       カ 学期に一度       キ 不定期       ケ その他(           )

9 週案は年間指導計画とどのように関連させ作成していますか。(複数選択可)

ア 学校全体として年間指導計画を具体化し、週案に反映させている。

イ 各学年・各教員の判断で年間指導計画を具体化し、週案に反映させている。

ウ 年間指導計画で予定された時数や進度について、週案に反映させている。

エ 年間指導計画をコンピュータソフトを使って週案と連動させている。

オ 特に関連はさせていない。

カ その他(           )

※10以降は、現在の勤務校のことでも、過去に経験した学校のことでも結構です。

10 週案を作成したことの成果はなんですか。(複数選択可)

ア 時数管理が確実にできるようになった。

イ 授業を予定通りすすめられるようになった

ウ 教員個々の授業改善に役立った

エ 教員自身の意欲向上につながった。

オ 教員間のコミュニケーションのきっかけになった。

カ 週案を教員間で共有することで、次年度の計画立案がスムーズになった。

キ 週案を教員間で共有することで、多忙感が解消された。

ク 特に成果は感じていない。

ケ その他(           )

11 授業改善や学力向上に向けて、週案をどのように活用していますか。

12 授業改善や学力向上に向けて週案をどのように生かしていったらよいと思いますか。

13 学校または、各教員が行っている週案作成や活用の工夫を教えてください。

学校名(           )

学級数 \_\_\_\_\_ (内特別支援学級数           )